

①校訓	あかるい子 なかのよい子 たくましい子	重 W点 学 び 地 域 を 域 広 げ 共 に 深 め よ う も の
②めざす児童生徒像〔(グラデュエーションポリシー)〕	地域で生きる人になる	
③高等部 求める生徒像〔(アドミッション・ポリシー)〕	自分の可能性を切り開くことに意欲が持てる生徒	
④学びの方向性〔(カリキュラム・ポリシー)〕	○地域で生きる力の育成 ・様々な学習や生活の中で活用できる知識の獲得 ・獲得した知識を活用して課題を解決する力 ・自己理解を深め、困難に負けず主体的に取り組む力 ○12年間を見通したキャリア教育の推進	
⑤学校の役割〔(スクールミッション)〕	出雲圏域の特別支援教育の拠点としての役割 ・障がいのある子どものキャリア教育の推進 ・センター的機能（教育相談機能）の充実	

評価 A:達成できている B:ほぼ達成できている C:あまり達成できていない D:全く達成できていない

学部 分掌 等	評価計画				目標値に対する実績	自己評価		学校関係者評価	
	重点目標	具体的方策	評価指標	目標値		評価	課題及び次年度への改善策等	評価	学校関係者評価委員からの意見等
小学部	地域と関わる体験的な活動を通して、児童の探究的な学びを推進する。 #With 地域と共に #学びを深める	地域と関わる授業のテーマを各学年で決め、児童の探究する姿を探究シート（研究ツール）をもとに話し合う。	小学部教員を対象としたアンケートの回答「見られた」「概ね見られた」の割合 『地域と関わる授業の中で、児童の探究する姿が見られたか。』	90%以上	95%	A	・学年のテーマを決め、地域と関わる授業を年間計画の中に位置づけたことで、計画的、継続的に取り組むことができた。繰り返し地域の人や物に関わったことで、安心感をもって取り組む姿、主体的な姿、表現の変容が見られた。また実態差への対応として、児童の興味関心に基づいた題材設定や、五感に働きかけるような工夫をすることができた。 ・次年度も、テーマを決めて取り組むことを継続する。また、他学年の地域と関わる活動を学部内で共有できるとよい。（学部会での報告など）	A	・小学部のチーム力を感じた。評価はAプラスアルファです。
中学部	地域と連携した授業を実践し、探究的な学びの姿を引き出し、学んだことを表現する力を育成する。 #地域で生きる人になる #学びを広げ、深めよう	生徒の姿を見つめ、探究的な学びについて、また「表現」や「対話」の場面や、生徒の心が動くような場面について振り返り、検討する。	検討会を学年会や学部研究等で5回以上実施する。	年間5回以上実施する。	学年ごとに8～10回実施した。	A	・「総合的な学習の時間」において、学年ごとのテーマで地域と連携した学習に取り組んだ。事前の計画や授業後の生徒の探究的な姿や地域の人、もの、ことにかかわりに深まりが見られた様子などを検討する機会を大切にしたい。 ・生徒が意欲的に取り組める体験的な学習活動や対話、生徒が学んだことを表現する場面を取り入れた授業づくりをした。 ・学部の研究として、カリキュラムマネジメントの視点を踏まえながら整理をし、次年度も実践をする。	A	・良くやりました。 ・実施回数、内容もAでは。 ・「カリキュラムマネジメントの視点を踏まえながら」とは、具体的にどのような視点なのか説明していただきたい。
高等部	他者や地域との関わりの中で生じた課題を自分ごととして捉え、自ら思考・判断・表現する力を高められるような探究的な学びを推進する。 #地域と共に #子どもの学びを広げ、深める #探究的な学びの推進 #地域のひと・もの・ことの積極的活用	授業において、「自分だったらどうする？」「どっちを選ぶ？」「それはなぜ？」などといった伴走者としての効果的な問いかけを行う。	高等部教員を対象としたアンケートの回答「できた」「概ねできた」の割合 『総合的な探究の時間やその他の授業において、生徒自ら思考・判断・表現できるような効果的な問いかけができたか。』	80%以上	79%	B	・総合的な探究の時間のあり方については、今年度の課題や改善策を次年度に活かしたい。 ・どの授業においても、生徒にとって自分ごととして捉えられるような題材設定や活動内容の工夫が必要。 ・教師の授業力（伴走者としてのファシリテーション力）の向上を図っていきたい。 ・教員同士で丁寧な実態把握や教材研究をする時間の確保。	A	・スバラシイです。 ・高等部の皆さんには、各種清掃活動や神西おどりの継承など大変お世話になりました。 ・目標値からするとほぼAであるが、中間評価Bの目標値に対する実績がわからないためどのくらいUP等したのがわからずBとした。 ・個人的には年々取り組みがバージョンアップしているように思う。2年部の総探に参加して、確かに先生方の問いかけについては、力量の差があると感ずることもあったが、ほとんどのグループで生徒たちに伴走しながら、生徒たちが自ら考え話し合うようなツールを用意し、活発な取り組みが展開されていたと感じた。 ・「総合的な探究の時間」に、年間を通して関わらせていただきました。生徒さんたちの興味・関心を「探究」のテーマとして落とし込んだり、それをより深めたり、なかなか成果が出ないことさえも「探究」の一部分として客観視していくなど、先生方の伴走やエンパワメントの力を実感しました。

訪肢 問体 グ不 ル自 一由 プ・	肢体不自由のある子どもたちが、地域との関わりの中で様々な思いを感じ表現することができる授業づくりを目指す。 #地域と共に	児童生徒の実態に合わせて活動できるよう、地域との関わり方をグループで検討し、打ち合わせや情報共有などの連携を行う。	地域と関わる授業を各クラス年間2回以上実践する。	年間2回以上実施	100%	A	・来年度も引続き、各クラスの取り組みのねらいや活動内容を年度当初に確認し、中間評価をグループ全体で行いながら実践の充実を図る。	A	・目標値に対する実績が回数でなく%になっていた。
大田 分 教 室	地域の人と一緒に、豊かな体験をもとにした授業づくりを行うことで、児童生徒の探究的な学びについて共通理解し、自ら学ぶ子どもを育てる。 #地域で生きる人になる #地域との連携 #with地域と共に #探究的な学び	地域の人と連携した授業を年間1～2回研究授業として実施し、研究協議において児童生徒の探究的な学びについて協議し、自ら学ぶ姿を引き出す。	大田分教室教員を対象にしたアンケートの回答「できた」「概ねできた」の割合 『地域の人と一緒に、豊かな体験をもとにした授業づくりを行い、児童生徒の探究的な学びや自ら学ぶ姿を引き出すことができたか。』	80%以上	100%	A	・地域の人との関わりを意識した授業づくりを、カリキュラムマネジメントの視点から次年度以降にも引き継ぎ、児童生徒の自ら学ぶ姿につなげたい。	A	・前向きですね ・生徒の自ら学ぶ姿に繋がってほしい。 ・カリキュラムマネジメントの視点について説明していただきたい。
通 摩 分 教 室	身近な人や地域とのかわりの中で、自分の良さに気づき、その良さを生かしていこうとする力を育てる。 #地域で生きる人になる #地域と共に	地域のひと・もの・ことを活用した学習を積極的に取り入れながら、地域の人と一緒に活動する中で、自分のできることを生かして、積極的に活動に参加する場面を設定する。	保護者や地域の方と交流できる場を年3回以上設定する(通摩高校との交流や行事への参加を除いた回数)	年3回以上	7回	A	・ポッチャを通して、地域の様々な年齢層の人とつながり交流できた。地域で活動する姿を見せることで、依頼を受けて実現した交流や学習もできた。ポッチャ交流では相手の年齢に合わせた活動内容を考えたり、自分のできることで役割をもって積極的に参加したりする姿が見られた。来年度にむけての課題としては、通摩分はもともと通摩高校とのかわりが多いので、年間を通して計画的に地域とのかわる学習を組んでいく。今年度できた地域との連携を継続し、体験を通して地域課題に気づいたり考えたりする過程を大切にしたい。	A	・目標の倍以上交流できたんですね。通摩高校以外の地域との関りもできた事は、次へ繋がると思いました。 ・通摩高校の中にあるという利点を活かして、地域連携による学びの機会をより一層活用していただきたい。
雲 南 分 教 室	地域や学校での探究的な学びの中で、他者と関わりながら自分や社会の様々な課題に気づき、解決していこうする生徒を育成する。 #with～地域と共に #自分の可能性を切り開く	様々な相手との関わりの中で、自分なりの考えを整理したり表現したりするための手立てを工夫し、課題解決に向かうための支援を行う。	雲南分教室教員を対象とした探究的な学びに関するアンケートの回答「できた」「概ねできた」の割合 『様々な相手との関わりの中で、生徒が自分の考えを整理したり表現したりするための支援ができたか。』	80%以上	89%	A	・教員が生徒の想いや意見を丁寧に聞き取り、発表に繋げることができた。今後は生徒がさらに課題に対して視野を広げたり、考えを深めたりできるよう、カリキュラムマネジメントを進め、地域のエキスパートとの連携(授業の伴走等)にも力を入れたい。	A	・ICTの活用はどうだったのですか。 ・カリキュラムマネジメントを進めるとは、具体的にはどのようなことか分かりやすく説明していただきたい。
み ら い 分 教 室	地域(ヒト・コト・モノ)と関わる体験活動を通して、主体的に学び、工夫して表現する力を育成する。 #地域で生きる力の育成 #探究的な学びの推進	児童生徒の興味関心に基づいた体験活動の設定と、表現活動への支援を行う。	児童生徒アンケートの回答「できた(はい)」の割合。 『体験活動が自分の興味関心のあるものだったか。』 『自分なりに工夫して表現活動ができたか。』	80%以上	100%	A	・児童生徒が意欲的に体験活動に参加し、地域のヒト・モノ・コトについて理解でき、授業公開日での発表に達成感をもつことができたと思われる。特に中学部では将来に向けての職業調べであったので、自分事として取り組めた。小学部は社会科や国語科とのカリキュラムマネジメントを図りながら取り組むことができ、身近なこととして理解できたと思われる。 ・まとめの学習について「まとめは苦手」「何と書いてよいか困る」といった発言もあったので、他の学習も含め繰り返しまとめ方やお礼状作りに取り組んで、まとめに慣れさせたり、パターンを分かりやすく伝えたりして抵抗感を減らすことに努めたい。	A	・小学部は社会科や国語科とのカリキュラムマネジメントを図りながら取り組むことが出来たとは、具体的にどのように出来たのか説明してください。

総務部	<p>学校創立50周年記念式典に向け、関連する児童生徒の学びの姿やこれまでの学校の歴史をHPで定期的に情報発信することで、学校、家庭、地域が一緒になってお祝いでできる式典の開催を目指す。</p> <p>#50周年記念式典 #with ～地域と共に子どもの学びを広げ、深めよう～</p>	<p>・各学部や分教室、分掌と連携し、記念式典に向けた児童生徒の学びの姿やこれまでの学校の歴史をHPで定期的に情報発信する。</p>	<p>具体的方策に挙げた内容についての記事を、定期的に情報発信することができたか。</p>	HPの更新回数 (年間15回以上)	20回	A	<p>・次の60周年、100年に向けて、ファイルやデータ、記録写真等の資料を整理する。保管場所は校長室、管理棟1階の資料室にまとめ、分かりやすくラベリングをして保管する。</p> <p>・学校HPの周年記念事業のタブについて、次年度、各分教室の周年記念事業でも使えるよう関係部署と情報共有し、今後も活用できるようにする。</p>	A	<p>・凄いいと思います</p> <p>・50周年の準備等 お疲れさまでした。</p> <p>・記念式典や記念品は、出養らしい素晴らしいものでした。お疲れ様でした。</p> <p>・ホームページについては、今年度は創立50周年の特設ページもあり、更新や記事の作成に時間と労力をかけられたことと思います。また校長先生が書いてくださっている学校の特色は、特別支援学校の枠を超えて、これからの学校経営に非常に重要な視点だと考えます。トップページからアクセスしやすしたり、言語的多様さへの対応などにより、さらに多くの方に知っていただけることを期待します。</p>
教務部	<p>地域のひと・もの・ことを活用した児童・生徒の学びの充実を図る。</p> <p>#地域と共に #カリキュラムマネジメント</p>	<p>学級経営案の新様式の作成や、年間指導計画記入についての説明を行い、取り組みについて振り返る機会の設定をする。</p>	<p>教職員アンケートの回答「良い」「概ね良い」の割合</p> <p>『地域のひと・もの・ことを活用した児童・生徒の学びについて、取り組みの計画、振り返りを行い実施することができたか。』</p>	85%以上	95%	A	<p>・今年度学級経営案の見直しを行い、新様式の作成を行った。来年度に向けてグランドデザイン、学部、分教室経営目標を受け、学級経営について検討がしやすいように、学部・分教室経営案様式についての検討を行う。</p>	A	<p>・頭が下がります</p>
生徒指導部	<p>・積極的な生徒指導や児童生徒の発達段階に応じて考える場面を設定した指導が実践できるよう支援をする。</p> <p>#地域で生きる人になる #児童生徒の主体的な学びの充実 #積極的な生徒指導</p>	<p>・問題行動等の未然防止に向けた予防的な指導や相談、児童生徒の成長を促す生徒指導を実践できるよう生徒指導提要や校内の指導の方針等を職員会や学部会で示していく。</p>	<p>職員会や学部会等で教職員への情報発信の回数</p>	学期に2回	達成	A	<p>職員会や学部会で生徒指導について考えたり、情報を周知したりする機会を設けることができた。児童生徒への肯定的な声のかけ方や、発達支持的生徒指導について共通認識し、教員が考えるきっかけとなった。本校中心であったが、分教室とも共有していきたい。生徒指導事案等が起こった際に、適時適正な情報提供(指導の方針や過去の指導例等)ができることよい。</p>	A	<p>・信頼関係すごいですね</p> <p>・生徒指導は、チームでの情報共有とみんなで係わる必要があると思います。よろしく願います。</p>
寮務G	<p>自分の良さを活かして仲間や地域の人と関わる姿を育む</p> <p>#地域の中で自分の力を活かす</p>	<p>余暇活動(モルック)のとりくみで生徒それぞれの良さを活かして役割を担い、仲間や地域の方と関わる活動を年7回設定する。</p>	<p>活動1回あたりの生徒の参加率</p>	80%	93.4%	A	<p>・参加率は93.4%で目標達成できた。</p> <p>・「生徒それぞれの良さを活かして役割を担う」という割合:5月～9月は平均27%だった。中間反省を経て、10月以降は事前準備や片付け、ポスターや景品づくりなどで生徒が活躍している姿を指導員間で共有する工夫や体制づくりを行った。その結果10月75.9%、11月77.3%、12月84%と向上した。参加した中で殆どの生徒が自分の良さや得意なことを活かして役割を担って活動することができた。</p>	A	<p>・スポーツ協会のモルック普及にご協力ありがとうございました。</p> <p>・27%から93%は、素晴らしい。生徒の方と良い関係ができている。</p> <p>・寮生が一つになって取り組めるものがあるというのは、とてもよいことだと思います。これからも継続して行ってください。</p>

進路支援部	<p>・進路に関する情報発信の充実を図る。</p> <p>#学びを広げる #地域で生きる人になる</p>	<p>・ホームページを活用して、関係機関等に向けての情報を発信する。</p>	進路情報の発信回数	年30回以上	30回	A	<p>・更新時期は遅れることもあったが、各学部、分教室合わせて関係機関等に向けての進路情報の発信回数を30回以上更新することができた。今後も関係機関等に向けての情報発信を続けながら、本校の教育活動の理解啓発に努めていく。</p>	<p>・普段からの生徒さん達をしっかりとみてらっしゃると思います</p> <p>・中間評価C 15回発信であれば中間ではAでは。</p> <p>・関係機関等というのは、具体的にどこですか？また、発信しての成果や手応えは感じられましたか。</p>
研修部	<p>校内研究の推進を通して、児童生徒の実態に応じた「探究的な学び」を実現する授業づくりを検討する。</p> <p># with～地域と共に子どもの学びを広げ、深めよう～ # 探究的な学びの推進（共に、一緒に、合わせての授業づくり）</p>	<p>・探究シート（研究ツール）を活用して、R5の研究成果物「探究的な学びの6つの視点」を意識した授業づくりを行う。</p>	<p>職員アンケートの回答「良い」「概ね良い」の割合</p> <p>『校内研究の取組を通して、児童生徒の「探究的な学び」を実現する授業づくりを行うことができたか。』</p>	90%以上	88%	B	<p>・各学部の実態に応じて「探究的な学び」の姿を授業実践を通して考えた。昨年度の課題だった低年齢の児童の「探究的な学び」の実践を積み重ねることができた。また、校内研究の取組を県知研の機会に、他校の先生方と共有し協議することができた。</p> <p>・障がい程度であったり、障がい特性から表出方法が少なかったりする児童生徒の「探究的な学び」を引き出す授業づくりについては、引き続き課題があった。</p>	<p>・目的が核があり良いです</p> <p>・中間評価で●課題後期に向けてがなかったですね</p> <p>・年齢、障がいの程度も多様な児童生徒に、探究的な学びを実現する授業づくりは大変だと思いますが、触れあうこと、感じるによって少しでも子どもたちの世界が広がっていけば、それが成果ではないでしょうか。また、そのふれあいから地域の人たちが学ぶこともたくさんあると思います。</p> <p>・高等部の「総合的な探究の時間」に参加させていただいて感じたこと（高等部の項に記載の通り）は、「探究的な学び」の授業づくりの取り組みがそのベースにあってこそだったと知り、とても納得しました。生徒さんの特性に応じた学びを引き出すことが課題とのことですが、そこは授業に関わらせていただく私たちも、共に学ばせていただきたいと思っています。</p>
相談支援部	<p>相談支援部全員がチームとしてセンター的機能の充実を目指し、教育相談活動に関わるニーズに応える。</p> <p>#センター的機能 #地域と共に #ホームページ</p>	<p>巡回相談やびよんびよん教室などの教育相談活動に相談支援部全員が参加し、相談の主訴やニーズに応じた情報提供や具体的な支援の提案などができるよう積極的に関わる。</p>	<p>相談の申込者や参加者対象のアンケートの回答「とても参考になった」「参考になった」の割合</p> <p>『今回の相談（巡回相談、びよんびよん教室への参加）は、お子さまとの関わりにおいて参考になりましたか。』</p>	80%以上	100%	A	<p>・定期的実施するびよんびよん教室にはほとんどの部員が参加し、発達段階に合う活動内容を提案することができた。巡回相談は不定期な実施のため部員の参加はわずしかできなかったが、相談支援部内で教育相談に関する報告・情報共有・事例検討等をし、お互いのスキルアップにつなげたい。相談の評価アンケートは教員・保護者の回答合計数57で、100%。（相談対象児53名。1件につき複数名からの回答もあり）</p>	<p>・中間CからAは素晴らしい。チーム力ですか</p>
図書情報部	<p>ICT機器・図書館が、学びを広げ深めるためのツールとして活用されるよう、情報を整理して発信する。</p> <p>#効果的なICT機器の活用 #探究的な学びの推進</p>	<p>校内用マニュアル等を修正・整理し、ミニ研修、ICT通信、図書館便りなどで情報発信を行う。</p>	<p>システム等のマニュアル修正の有無（①Google②Zoom③さくら連絡網④総合文書管理システム⑤HP起案⑥機器利用のきまり⑦その他）</p>	前期：4/7見直し終了 後期：7/7見直し終了	7/7見直し終了	A	<p>昨今は、システム等の留意事項やシステムそのものが流動的に変化しているため。日々新しい情報に更新したり、教職員向けに情報発信したりすることを続けていく必要がある。</p>	<p>・重点目標報告に書かれた図書情報部のエンゲージメントとは、どのようなことでしょうか？</p>

保健部	危機管理関係のデータ集約をスムーズに行ったり、定期的な点検を見直したりすることで、安心安全な教育環境づくりに努める。 #地域で生きる力のベース #危機管理体制	ヒヤリハット報告、安全点検などICT支援員に協力を求めながら、使いやすいものにしていき、集計にかかる時間を短縮させ、改善を図る。	書式の見直しや点検等の項目の検討を行う。	年2回以上	7回	A	・1月の試行を経て、点検フォームや集計時の問題を解決し、使いやすいものにしていく。 特に、担当者が新しくなると集計時の操作方法がわからなかったり、教室名や責任者の変更があったり、年度更新の際に問題となる点が多いため、次年度スムーズな移行ができるように検討していく。	A	・アシスト力が凄いです。
地域連携推進部	地域と連携した学習において活用できる情報の整理・管理を進める。 #地域と共に #地域のひと・もの・ことの積極的な活用	学校図書館と連携し、地域に関する冊子、パンフレット、書籍等の閲覧コーナーを設定し、全体に周知を図る。	教職員アンケートの回答「閲覧した」「活用した」の割合 『地域と連携した学習において、学校図書館に設定したコーナーを閲覧、又は活用したか』	80%以上	閲覧した55% 活用した17.1%	C	・コーナー設置に向けての書籍等の手配や本棚の設置の調整が遅れ、実際は10月からの運用となった。今年度からの取組であり、現在も図書情報部と連携して内容の充実やPR動画やポスター等で全体周知を継続して行っている。 ・今年度は「挑戦する」という意味で目標値を高めに設定したが、中間評価においてその妥当性について検討する必要があった。 ・来年度もさらに、アンケート結果を基にニーズに合わせた書籍等の充実、閲覧しやすい設置場所の検討、定期的な情報発信等に取り組む。 ・分教室についても図書館司書と連携し、実情に合わせて取組を進める。	B	・行動力の賜物かと ・方策の取組が遅れたため48%。来年度に期待します。 ・評価はCとしましたが、実質10月以降の実施と言うことなので、目標値を下げて評価されてはどうでしょうか。
事務部	就学奨励費の早期支弁	就学奨励費の早期支弁に必要な支弁区分の決定にあたり、保護者の個人番号（マイナンバー）の利用を促進することで区分の早期決定につなげるとともに事務処理の簡素化を図る。	10月末日時点の支弁区分決定率	80%以上	85%	A	・支弁区分の決定は特別支援教育課が行っており、各校の申請数や提出状況、特別支援教育課の業務状況等により、決定の時期に変動があるが、目標を上回る決定率となった。 ・規模が大きい学校に対しての区分決定は、これ以上早くなることは困難と思われる。 ・一方で、区分の決定に必要な世帯所得を確認するための本校のマイナンバー利用率は95%を超えており、事務処理の簡素化につながっている。	A	・お世話になっております。

学校関係者評価委員 (いずよう魅力化協議会委員) 総評	<ul style="list-style-type: none"> 細かい活動内容までは、よくわかりませんが、外から見る限りでは、先生方は、たいへん素晴らしい教育をされていると感心しております。 適切な評価がされています。とても良いと思います。 今年度1年も大変お世話になりました。先生様方の思いにいつも感動を致しております。 どの学部を取組みも、教職員のみならずが一生懸命に関わる姿が伝わり、子どもたちの学びの成長につながっていると感じています。 出雲養護学校が、地域に開ける学校として広がっていると思います。そこから地域が、いずようの子どもたちの姿を見ることにより、障がい理解を深めていただきたいと思っています。子どもたちが社会に出ても光となって過ごしてほしいと願います。 中間評価でも具体的回数、%を書いてほしい。年間の回数の半分ができていればAではないか。%も書いてあれば伸びがわかりやすい。中間評価で●課題、後期に向けてがあるのであれば、その結果等も年度末評価に書いてあっても良かったのでは。入力遅くなりすみませんでした。 3学部、4分教室と肢体不自由・訪問G全てについて知ることは困難なため、なかなか評価しづらいところがありますが、様々な形で児童生徒の学習活動の様子を伝えていただきありがとうございました。探究学習については、予測して計画を立てても、その通りに進むとは限らないので、生徒たちの課題探究の思いにネットワーク軽く対応していただけるような学校としての体制があると、先生方も心強いと思います。生徒も先生も伸び伸び生き生き活動できる出雲の教育実践を、これからも楽しみにしています。 ICTの活用などにより、多量かつ多様な業務の効率化を進める一方で、教職員間のコミュニケーション（関わり合い、助け合い）を大事にされていることに共感します。授業や会議で先生方と接する中で、「お互いをねぎらうような+αの言葉かけ」の取り組みの成果をいつも感じさせていただいています。
校長より	<p>本校がグランドデザインを策定して、3年目を迎えました。学校運営協議会の委員の皆様には、共生社会の実現に向けて、本校が取り組んでいる地域との連携の充実を理解し、めざす児童生徒像「地域で生きる人になる」を教育活動を通して具現化していくために、それぞれのお立場やご経験から、学校現場が気づかない視点での貴重なご意見、ご助言をいただきました。また、今年度も引き続き、委員の立場としてだけでなく、学校と地域をつなぐ役割を担いながら、本年度の学校重点テーマ「with～地域と共に子どもの学びを広げ、深めよう～」のとおり、子どもたちの学びの充実にもご尽力いただきました。</p> <p>来年度に向けては、次期グランドデザイン策定について、委員のみならずのご意見もいただきました。出雲養護学校として目指す方向性は変わりませんが、第2ステージへステップアップし、一人ひとりの子どもたちの良さが、より輝きを増すような取組を学校と地域がつながり、より進めていこうと励ましていただきました。これからも出雲養護学校は、地域と共にある学校として取り組んでまいります。</p>